

熱中症かなと思ったら、迷わず休憩をとりましょう！

～ 改善がみられない場合は医療機関へ ～

「自分は大丈夫」「単なる疲れ」と思い込み、熱中症の危険を軽視して早期の手当てが遅れ、重症化して命に関わったり後遺症が残ることがあります。「いつもと違う」「おかしい」と感じたら、**速やかに水分や塩分をとり、暑さを避けて休憩をとりましょう。**

早い段階で治療を受ければ、スムーズに日常生活に戻ることができます。水分補給や休憩で症状が改善しない時は、**我慢せずに、医療機関を受診しましょう。**

■ 熱中症の疑いがある時の対応方法

(環境省熱中症予防情報サイトをもとに作成)

チェック1 熱中症を疑う症状がありますか？



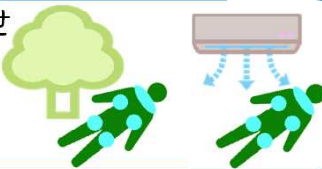
チェック2 意識がありますか？



意識がある

意識がない
返事がおかしい

涼しい場所へ避難させ
ベルト・服をゆるめ
身体を冷やす



チェック3 水分を自力で摂取できますか？

摂取できる

摂取できない

水分・塩分を補給する



※無理に
飲ませない

吐く
吐き気を訴える

チェック4 症状がよくなりましたか？



良くなったようでも決して
一人にせず、経過を観察してください

改善しない

救急車を呼ぶ



救急車を待っている間は
涼しい場所へ避難させ
ベルト・服をゆるめ身体を冷やす



医療機関を受診



処置を即座に開始するためにも、
発症時の状況を知っている人が付
き添い、情報を積極的に伝えま
しょう

■ 身体を冷やす方法



首筋、脇の下、太ももの
付け根あたりに氷のうや
保冷剤などをあてる



露出させた皮膚に水を
かけ、うちわや扇風機
などであおぐ



架空線の近接作業時には安全対策を確実に！

～ 作業の度に架空線等の位置や高さの確認も忘れずに ～



架空線事故については、「あんぜん」においてもこれまで幾度も注意喚起を行ってきたところですが、最近も発生し続けています。架空線事故は社会生活に大きな影響を及ぼす恐れがあります。**確実に安全対策を講じ、関係者に周知徹底して事故を防止**しましょう。

防護カバーの設置

高さ制限装置の設置

架空線注意

旗・看板・安全標識の設置

立入禁止区域の明示

監視員・誘導員の配置

形式的に安全対策を講じただけで、架空線の高さなどを意識せずに作業を行って事故に至るケースがみられます。危険意識が薄れないよう、朝礼時やKY活動での事故防止啓発を工夫して行いましょう。

架空線の種類・位置・高さを周知徹底しましょう

- 重機オペレーターや監視員・誘導員だけでなく、**関係者全員に架空線の種類・位置・高さ、その他の留意事故を周知徹底**しましょう。
- 非常停止の合図を監視員・誘導員以外からもかけられるよう**合図方法も関係者に周知**しましょう。

ダンプトラックの荷台下げ忘れに注意

ダンプトラックの荷台を上げたまま走行し、現場の架空線や一般道の橋桁に接触する事故が毎年のように発生しています。



- 簡易ゲートや自車状態確認用のミラーの設置、一般道への出口に誘導員を配置するようにしましょう。
- 誘導員を配置していても、複数台を同時に受け入れる現場体制になっていなかったり、混み合ってきて早く発進させようと確認が不十分になることがあります。**現場状況と計画が乖離していないか、実際に計画どおりに実施されているか確認**するようにしましょう。

予定外の作業や移動に注意

予定外の作業や移動が必要となって、現場状況を十分確認しないまま安易に作業を行い架空線に接触するケースがみられます。

- 効率的な段取りのように思っても、検討が不十分の場合もあります。その場の判断で計画外の作業・移動は行わず、必ず関係者間で協議・調整をし、**複数の目で危険性がないことを確認して、実施**するようにしましょう。
- 当日の作業が予定より早く終わり、当日に予定していなかったにも関わらず翌日の作業のための事前の移動を行うようなことも「予定外の作業」にあたります。必ず、関係者間の協議・調整などの予定外の作業を行う場合のルールを定めておきましょう。

地下埋設物の近接作業は事故防止対策を講じましょう

～ 慎重な作業で安全確保も大切です ～

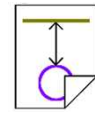


地下埋設物事故は例年、発生件数が多い事故です。**入念な調査を行い、事故防止対策を講じ、作業中に異常を感じたら速やかに作業を中止し、確認することを徹底**しましょう。

調査は念入りに

- 管理者に道路台帳や埋設物台帳や埋設図などの提供を求め、**埋設物情報を整理し、計画書に明示**しましょう。
- **埋設物管理者に立会**を求めましょう。
- 埋設物が図面に記入されていないこと、間違って記入されていること、管理者が埋設物の存在を把握していないこと
があります。**探査機などによる現地での調査**を検討しま
しょう。

図面での調査



立会



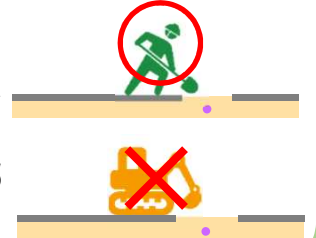
現地での調査
(探査機など)



試掘の実施

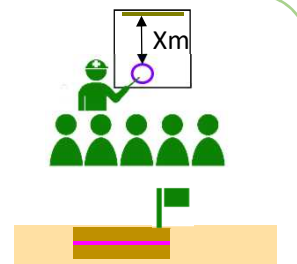
- 掘削位置や方法を監督員とよく打合せし、埋設物管理者の立会のもとに指示に
従って行いましょう。
- **埋設物近くは、人力掘削が原則**です。
- **埋設物を必ず露出させて確認**しましょう。確認後は、管種、位置、管径などを
明示しましょう。
- 確認後は埋設物に損傷を与えないよう、防護措置を行いましょう。特に屈曲部
や継手など弱い部分は十分に補強しましょう。

埋設物近くは
人力掘削が原則



作業員への周知

- **埋設物の管種・位置・管径、作業手順や危険箇所を関係者全員に周知**しまし
ょう。
- 手順や危険箇所の位置を事前周知していても、作業中に埋設物の存在をつい
忘れてしまうことがあります。**作業箇所に埋設物の管種・位置などの目印、マー
キング**をしましょう。



作業では

- 埋設物に近接した箇所で、**やむを得ず重機による作業を行場合は、刃先監視員
を配置**しましょう。
- 重機の刃先が埋設物に直接接触しなくても、土を押し出すことで埋設物に影響
を与える場合があります。状況に応じて手掘りへの切り替えを検討しまし
ょう。
- **作業中に異変を感じたら速かに作業を中止し、埋設物の状態を確認**しまし
ょう。
- 埋め戻し作業後、及び舗装復旧後は沈下がないことを確認しまし
ょう。



【速報】直轄工事で死亡事故発生！

土砂混合機の点検（清掃）中に回転刃に巻き込まれる

4月中旬、樋門築造工事において、作業員が土砂混合機の点検（清掃）中に回転刃に巻き込まれて死亡する事故が発生しました。

本事故の原因については現在調査中ですが、今回のような機械へ巻き込まれ事故は、どの工事現場でも起こりえる事故です。**少しの気の緩みで大きな事故を招くことがあります。各現場におかれましては、今一度、作業手順及び機械の取扱説明書を熟読し、安全に作業を行うよう心がけてください。**